

「新資料の紹介」

原田勘平宛御風書簡

平成19年度、新たに御風関係資料2

点を購入しました。ひとつは原稿「良寛和尚の書の特質に就て（原稿用紙11枚）」、もうひとつは、ここに紹介する「原田勘平宛御風書簡（額装）」です。

書簡の受取人である原田勘平（明治20年（昭和49年）は、新潟県西蒲原郡間瀬村（現・新潟市）の出身で、旧姓は田島。明治40年に新潟師範学校を卒業して高等小学校教員となり、同45年に原田家に婿入りし、五代目当主となります。

この原田家は、良寛のよき理解者であつた国上村（現・燕市）の医師・原田鶴齋の子孫にあたり、家には多くの良寛遺墨等が残されていました。勘平は資料整理を進めるうちに良寛に興味を抱き、研究に打ち込むようになります。主な著作に「良寛さま」「良寛雑話」「良寛詩集」等。

一方、御風は大正5年に東京から糸魚川に帰り、良寛研究を開始します。翌6年の夏には、2回にわたって良寛遺跡めぐりの旅に出発。その道中、原田家を訪問して、勘平と初めて対面することになります。

御風は、その第一印象を「年はまだ若かつたが、いかにも趣味の豊かな、

精神的な傾向の人」で、「此の原田家の當主ぐらゐ深い理解を以て良寛に對してゐる人は、おそらく此の地方にもさう多くはあるまいと思つた」（『早稲田文学143号・良寛遺跡めぐり』大正6年10月）と述べています。

そして、勘平を「（良寛の内面を探求してみたいという）私の考を最も正當に受入れてくれた人」と高く評価し、良寛研究のパートナーの一人として交流を深めていきます。

2人の書簡については現在、御風宛勘平書簡15通（封書8通・葉書7通）を当館で所蔵しており、勘平宛御風書簡については封書7通（個人蔵）の所在と内容を確認しています。

解説

書簡の主な内容

書簡は、1メートルを超える巻紙に毛筆で書かれており、消印は大正6年9月23日。封筒とあわせて扁額に収められています。

前半は、御風の良寛研究書の第一冊目となる『良寛和尚詩歌集』（大正7年2月18日、春陽堂）編集に対する協力のお礼など。中ほどから、この書簡の本旨が書かれています。

「近頃玉木礼吉氏が詩歌集出版の爲め上京されるとか云ふ話を出雲崎の佐藤吉太郎氏から聞きました。が事実でせうか

もしそれが事実でないとして玉木氏

の材料をある程度までゆづり受けるとしたらどう云ふ方法を取るべきでせうか（略）何とか一つ尊兄の御教示を仰ぎ且御尽力を仰ぎたくと思ひますが如何なものでせうか」

当時、御風は『早稲田文学』に良寛に関する記事を連載していましたし、翌春には、『大愚良寛』の発行も予定していました。

これらを執筆するにあたり、礼吉が集めた資料を手に入れたかつたのでしよう。年下の勘平に対して、へりくだって協力を求めています。

御風がこの書簡を送る前、勘平から届いている書簡（大正6年9月18日付）に、この伏線となる次の一文が見られます。

「中島の玉木礼吉氏が疑問もあれど多くの材料をもつて居られ候故何とかして未だ世間に出ぬものをゆづり受けられたらばと蛇足を添へて申上候」

そして、御風の依頼に対し、勘平は、「玉木氏より本日手紙まゐり目下上京中にて（略）出版の事二奔走中の由二候

本も来春二月頃出来候予定の由」

と回答しています（11月5日付）。

——年が明けて大正7年2月23日、礼吉の『良寛全集』が全国良寛会から発行されました。

御風が、最終的に礼吉から資料を譲

り受けたかどうかは分かりませんが、この『良寛全集』は入手し、

『大愚良寛』（大正7年5月26日・春陽堂）の緒言に参考

図書として、書名を挙げ

今回、紹介した「会津八一有恒学舎時代の記録」「勘平宛御風書簡」、新資料「良寛和尚の書の特質に就て（原稿）」を当館2階で展示しています。

